2022年度 事業報告

１．【概要】

2022 年度は、新型コロナ対策の行動制限措置がなくなり、当ＮＰＯ法人の各活動も順調に推移し「ハウジングアンドコミュニティ財団」からの大型助成金事業などにより、新たな大きな一歩を踏み出しました。また、受託事業の一つである「元気アップかりば」の 6 つの季節行事的イベントはフルバージョンとはならなかったものの全てが実施され、受託事業・自主事業あわせて「地域交流の場づくり」「かりばプラザの元気アップ」「高齢者などの生活サポート・居場所づくり」などが進められ、「歳をとっても安心して住み続けられる地域づくり」に寄与することができました。

２．【受託事業】

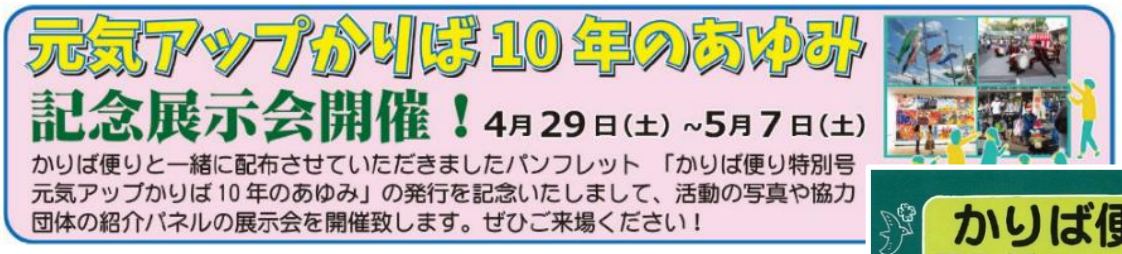
「受託事業」として運営している「コミュニティスペース」の訪問者数は、2020 年度にコロナ禍で 10,309 人までに減少しましたが、昨年に続き 2022 年度もさらに回復し 11,318 人となりました。しかしながら、これまで最高の 2018 年度 13,255 人には届きませんでした。

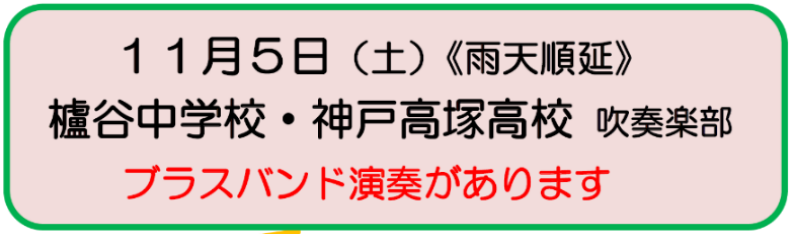
「かりばプラザ集会所」の受付も 647 件（2021 年度 568 件）まで回復してきましたが、受付業務を受託してから最高の 2015 年度 1,118 件までは届きませんでした。

事務局的役割を受託している「元気アップかりば」の取り組みでは、昨年以上に取り組みが進み、フルバージョンではなかったものの「子どもの日」「七夕まつり」「夏まつり」「秋まつり」「餅つき会」「ひなまつり」の全てが実施され、かりばプラザの活性化に大きく貢献しました。

なお、2020 年度に予定していた「元気アップかりば 10 周年」記念事業が、コロナ禍により延期されていましたが 2022 年度になって取り組むことができたのは特筆すべきことです。「かりば便り特別号；元気アップかりば 10 年のあゆみ」の発行、各イベントにおける「パネル展示」、「秋まつり」における「ブラスバンド演奏(屋外ステージ)」が実現しました。

「元気アップかりば」の取り組みも 12 年が過ぎ、新たな住人となった子育て世代も参加し、担い手も少しずつ変わってきています。今後、かりばプラザリニューアル事業も検討されており、次の時代に向けた成長発展が期待されています。





３．【自主事業】

「自主事業」は、新たな試験的取り組みを含め多様な展開となりました。

（1）「お困りごとサポート事業」の利用件数は、2020 年度ではコロナ前の 61%（83 件）まで減少していましたが、新たに 6 月から「刃物研ぎ」をお困りごとメニューに入れ店頭で毎月第１月曜日に実施したことにより 109 件が上乗せされ、過去最高の 241 件まで到達しました。また、ゴミ出しも 52 件と増え、庭の草取り・剪定 52 件と合わせて上位の 3 つのメニューで 88%にもなりました。

また１月から３月にかけて毎月１回試験的にかりばプラザ広場で開催した「刃物・掘り出し市」 にそれなりの需要があることが分かり、2023 年度は「刃物研ぎ」と合わせて開催しています。

「刃物研ぎ」（お困りごとサポート）

「刃物・掘り出し市」（試験開催）

（2）「フリマボックス事業」は、2022 年度「暮らし・居場所調査」の結果、フリマボックスの認知度が高く、50 歳以下の人たちにも知られていることが分かりました。2022 年度の売上げは 3,910 品、1,264 千円（2021 年度　5,483 品、1,402 千円）となり、地域の居場所づくりに貢献しました。2021 年度と比べ売上げ点数が減少していますが、その原因の一つとして考えられるのが、2022 年度は市販の不織布マスクが安価に入手できるようになったことにより手作りマスクのお買い求めが減少したことです。

２年ほど開催できていなかった「オープンフリマ」は、開催要望もいただき、2022 年度は「かりば七夕」「秋祭り」の中で開催できました。

子育て世代の女性の皆さんによるおしゃれなグループ・フリーマーケット「ニコマル・マルシェ」が、実施されなかったことはたいへん残念でした。

（3）「健康ひろば事業」は、参加者のみなさんからたくさんの要望が寄せられたことにより「健康ストレッチ」もこれまでの月３回から 2022 年度に毎週の開催へと変わり、「太極拳；火曜日 9：00 - 9：45」「ストレッチ；木曜日 9：00 - 9：45」とも、祝日・雨天時・真夏の８月・年末年始を除き毎週の開催となりました。2022 年度の参加者は、回数が増えたこともあり年間 3,637 人（2021 年度 3,139 人）と増加しました。参加のみなさんは、健康維持・介護予防、交流の場として楽しんでいただき、さらにはかりばプラザの元気アップにも貢献してくれています。

2016 年度から「西区わがまち魅力アップ事業助成」、2019 年度から神戸市西区社会福祉協議会の「赤い羽根助成」、2022 年度からは新たに「神戸市つどいの場支援事業補助金」を

受けて開催しています。

「セルフ喫茶」は、太極拳・ストレッチのあと、その参加メンバーに利用していただくことも多く 2022 年度は 203 千円(2021 年度 166 千円）となり、その収益で「健康ひろば事業」の経費の一部を賄っています。

神戸医療生協西神支部との共同により 2021 年度から始めた「体力測定会」は、春秋２回の開催を企画し、２年目となる 2022 年度は第 3 回を 5 月 24 日、第 4 回を 11 月 17 日に実施し、それぞれ 55 名・50 名の参加を得て定期開催ができました。測定項目も①片足立ち、②握力、③10m障害物歩行、④長座体前屈、⑤足趾力の 5 種目のほか、指輪っかテスト、血圧・体脂肪測定も行い、希望者には有料(500 円)で骨密度検査も行いました。専門的な知識・技術・資材を備えている他団体の協力を得ることによって、地域のみなさんの健康維持のバロメーターが得られる体力測定会を今後も定期的(5 月・11 月)に実施していきます。

（4）「移動自転車修理店」（毎週月曜日）は、地域の皆様からたいへん喜ばれ、コロナ禍にもかかわらず年間 858 人(2021 年度 888 人)の訪問を受け、理髪店・美容院が閉店の月曜日においてかりばプラザの賑わいに貢献してくれています。

また、2022 年 7 月に行った 4,200 戸への全世帯調査では、当ＮＰＯ法人の活動の中で最も知られている活動ともなりました。自転車をお持ちの方は一度や二度は利用されている‘必需’事業であることが浮き彫りになりました。

（5）「元気アップかりば」イベント協賛事業として好評となっている「かりば七夕(夜の部)・ビアガーデン」「夏祭り・生ビール屋台」の取り組みは、2022 年度もまったくできず残念という声をお聞きしますが、当ＮＰＯ法人としても収益が計上できず財政に響いています。

4.【ハウジングアンドコミュニティ財団助成事業】

2022 年度事業で特記すべきこととして、ハウジングアンドコミュニティ財団からの大型助成金により以下の事業を実施し、大きな新たな一歩を踏み出したことが挙げられます。

（1）「地域の居場所」づくりを中心に地域課題を把握するための全世帯調査

「暮らし・居場所調査」の名称で、兵庫県立大学国際商経学部和田研究室のご協力により、狩場台・糀台地域の全世帯 4, 200 戸へのアンケート調査を実施しました。

回収した調査票は 1, 854 票、回収率は 31%と高く、内容は以下の通りでした。①「地域の居場所」を必要と感じている方が 1, 218 名に対して、実際に参加している方は 391 名と少なく、お世話役として参加可能な方は 181 名、②地域の中心となる「かりばプラザ集会所」について、利用経験なしの方が 81%・1, 508 名、その存在すら知らない方が 7%・128 名、「団地集会所」は、利用経験なしの方が 74%・1, 370 名、その存在すら知らない方が 5%・101 名と、かりばプラザ集会所も団地集会所も利用率がたいへん低く、あまり使われていない状況が数値で浮き彫りになりました。

この調査結果は、9 月には調査結果の抜粋・速報版をホームページに掲載し、12 月には地域報告会を開催し 37 名の参加がありました。その後、

「暮らし・居場所調査」地域報告会（かりばプラザ集会所）

解析結果報告データも含めたすべての調査結果をホームページに掲載し、調査の成果全体を地域および行政を含む関係者で情報共有できるようにしています。

当調査は、入居から 40 年経過後の地域の状況を把握した初めての本格的調査となりました。調査結果は次項に記載している、「自治会等の集会所を『地域の居場所』にする活動」や「かりばプラザ集会所の『公民館的・コミュニティセンター的運営』を実現する活動」に対して関係者の理解や協力を得るにあたって絶大な効果を発揮すると同時に、「かりばプラザ」の活性化の方向性を導き出すなど多方面にわたって効果を発揮するものとなりました。

（2）自治会等の集会所をＮＰＯ支援で「地域の居場所」にする活動

各々の丁目において「つどいの場」を実現するため、先ず、民生委員の協力が得られた狩場台 3 丁目において着手しました。12 月 10 日に「地域ささえあいを考える集い」を開催し参加者 22 名。その後、23 年 1 月 14 日、2 月 14 日、3 月 16 日の 3 回の「つどいの場準備会」を経て、メンバー8 名で「つどいの場『げんきサロン』」発足という成果につながりました。

今後さらに、条件のある丁目から順次進めて行くこととしています。

「狩場台３丁目 つどいの場 準備会」
（ウエルメロード狩場台団地 集会所）

（3）かりばプラザ集会所の「公民館的・コミュニティセンター的運営」を実現する活動

当集会所は、ニュータウンを開発した神戸市が建設し、第 3 セクターの株式会社こうべ未来都市機構が管理・運営しています。4 月からこの両者に申し入れ、協議を続けてきた結果、①地域コミュニティの核となる「かりばプラザ集会所」の利用の増進を図ることの重要性を認識し、②そのため、スマートフォンに対応した、部屋の空き状況の検索から申し込み・料金支払い・部屋の利用までをワンストップで可能にする IT システムの導入、③集会所において必要とされるソフト面の企画運営を当ＮＰＯ法人が担う方向で、実現に向けさらに協議を進めるとの合意ができました。

なお、上記の施策・協議を進めることと並行して、公民館的・コミュニティセンター的な運営を実現するための人材を当ＮＰＯ法人で確保・育成していくことも、今後の課題となっています。

５．【ＮＰＯ活動の発展】

当ＮＰＯ法人は、2022 年度には設立から 9 年目を迎え、経営改革ステップ計画（2021～2023 年度）の進展、さらにハウジングアンドコミュニティ財団助成金事業の実施により活動内容・体制ともバージョンアップされてきました。

（1）「賛助会員」は、2022 年度も継続して募集に取り組み、115 名/147,500 円（2021 年度 101 名/129,500 円）の賛助をいただくことができました。今後も、さらに継続的に地域に役立つ課題に取り組みながら、当ＮＰＯ法人の応援団として「賛助会員」になっていただき、文字通り「地域の皆様に支えられたＮＰＯづくり」を進めていきます。

（2）「ホームページ」は、2022 年度も年間 14 回・月 1 回以上更新するとともに、4,200 世帯への「暮らし・居場所調査」が行われた結果がホームページに掲載されたことなどにより、閲覧回数は 2021 年度 10.4 回/日から 2022 年度 11.8 回/日まで伸びました。

しかしながら、閲覧された地域の方から「欲しい情報にたどり着きにくい」「スマホでは見にくい」などの苦言も寄せられ、改善に向けた取り組みが必要となっています。また、情報発信のツールはホームページだけでなく SNS の「インスタグラム」や「フェイスブック」なども広く使われており、導入検討が必要です。さらに、紙ベースのポスターやチラシなども上手に使うなど多様な媒体・ツールを駆使することも必要です。

（3）「経営改革ステップ計画（2021～2023 年度）」の 2 年目となる 2022 年度は、日常的な実務は「事務局」体制によりスムーズに進められるようになりました。

また、ハウジングアンドコミュニティ財団からの大型助成金による 4,200 戸の全世帯調査では、地域における暮らし・居場所の状況やニーズとともに当ＮＰＯ法人への評価が把握でき、地域ＮＰＯとしての今後の事業の方向性が見えてきました。

（4）2022 年度は、新たな人材の掘り起こしが活発に行われ、新たな正会員・ボランティア会員 8 名が加わりました。

8 月には西区社会福祉協議会・西神中央あんしんすこやかセンターの協力により「地域ボランティアを考える集い」を 27 名の参加で開催し、4 名の会員を迎えることができました。また、1 月には神戸市主催・コミュニティサポートセンター神戸企画運営の「地域貢献活動フェア」が催され、当ＮＰＯ法人も参加することによりまた 4 名の会員を迎えることができ、大きな成果を上げることができました。

地域に役立つ新たな活動を始める際には人材の発掘・養成は必須となるものなので、今後さらに力を入れなければならないと考えています。

「地域ボランティアを考える集い」（案内チラシ）

― 4,200 世帯に呼びかけ初めての開催！―

「NPO 地域貢献活動フェア」（案内チラシ）

― 神戸市内５ヵ所で初めての開催！―